

<主な取組>

- 2-① デジタル技術も活用しながら外国語教育を充実させるとともに、異文化理解の促進や、国際的素養を身に付けたグローバル人財の育成に取り組みます。
- 2-② 主体的に課題を発見し、多様な人との協働により課題解決する探究学習の実施や、S T E A M教育等の教科等横断的な学習の充実に取り組みます。
- 2-③ 地域活動への参加促進、世代間交流の機会充実などにより、若者の定住意識の醸成に取り組みます。
- 2-④ 主権者教育、防災教育、消費者教育、E S D等、主体的に社会の形成に参画する教育を推進します。

<主な事業等>

主な取組	事業等名	R6決算額 (千円)	取組内容・評価 (●…事業概要 ▶…具体的内容・実績・評価等)
2-①	青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業	21,795	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅広い教養や主体的に課題を発見し解決する国際的素養を身に付けた人財を育成するため、国際的な教育プログラムである国際バカロレア※の理念に基づく教育プログラムの開発・普及に取り組むとともに、本県の高校生と台湾の高校生の相互交流による主体的で実践的な協働学習を実施する。 ※ 国際バカロレア…世界の複雑さを理解し、国際的な視野を持つ人財を育成する教育プログラム ▶ 高校生40人、教員5人を台湾の崑山高級中学に派遣し、英語による協働学習を実施。 ▶ 覚書締結校5校の生徒64人が台湾へ渡航し、各校で協働学習を実施したほか、締結校2校で台湾から生徒39人を受け入れて協働学習を実施。 ▶ オンラインを活用した協働学習は、締結校5校及び木造高校の計6校が実施。 各取組について県教育委員会等からタイムリーに情報発信することができた。各校の特徴を生かした協働学習を実施し、グローバルな視野や感覚を身に付けられる取組となった。
2-②	持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業	72,509	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生の県内定着促進や、持続可能な青森県を創造できる人財育成に向けて、全ての県立高校において、地域資源や人財を活用して、高校所在地域及び自身の居住地域等について理解を深める学習「あおり創造学」に取り組むほか、県内就職に関する情報提供や学校と企業の相互理解を促進するための就職支援員を配置する。 ▶ 全ての県立高校で「あおり創造学」を実施。その取組についての動画を制作し、全ての公立中学校へ配布。全ての県立高校の代表生徒が一堂に会する成果発表会を開催。各校の探究学習の推進を図るとともに、地域の小・中学校等へ情報発信することにより、郷土に対する愛着や誇り、地域への貢献意欲の醸成につなげることができた。 ▶ 県立高校12校に就職支援員を配置。県内求人の開拓、生徒、保護者、教員への求人情報の提供や進路相談等により、近隣のサポート校も含めて県内就職を支援した。新規高校卒業者の県内就職者の割合が前年度より低下したことや進学希望者数の増加等を踏まえ、就職支援員の取組内容を精査する必要がある。
2-③	ドリカム人づくり推進事業	6,975	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の向上心や積極的に学ぶ意欲を育むため、児童生徒が主体となり企画・活動を行う特色ある学校づくり事業を実施する。 ▶ 県立学校15校（単独校型13校、連携校型2校）が、地域の活性化やものづくり、交流活動等を企画・実施。生徒一人ひとりの豊かな人間性の醸成、学校の特色化、学校間の連携強化、相互理解につながった。

主な取組	事業等名	R6決算額 (千円)	取組内容・評価 (●…事業概要 ▶…具体的内容・実績・評価等)
2-④	高等学校における防災教育推進事業	4,011	<ul style="list-style-type: none"> ●「共助・公助」の資質・能力の育成を目指した防災教育の普及のため、県立高校において、防災教育に関する取組を実践し、実践事例を記録集にまとめ、他の高校へ配布する。 ▶実践校の防災教育を推進する教職員による視察研修を実施。(12人参加) 東北大学災害科学国際研究所や宮城県多賀城高校災害科学科、震災遺構大川小学校等で研修を行った。参加者は他県での様々な取組を学び、防災教育の選択肢を増やすことができ、大変有意義な取組となった。 ▶各実践校で、地域の災害リスク等に応じた実践的な防災学習に取り組み、災害を自分事として考えることができるようになり、災害発生時に主体的に行動できる資質を身に付けることができた。 ▶「あおり高校生防災サミット」では、各実践校による事例発表、防災・減災カードを用いたワークショップ、K J 法を用いた演習など多様な防災学習に取り組み、学びを深めていた。(95人参加) ▶実践校の取組を他の高校へ普及させるための記録集を作成し、全ての高校に配布。今後は取組の普及のため、各学校において実践記録集の活用方法について助言していく必要がある。

<指標>

No.	指標	基準値 (現状値)	目標値 (R10)	R6	R7	R8	R9	R10
①	本県の公立高校において、高校3年生でCEFRのA2レベル相当以上を達成した生徒の割合	(R4) 50.2%	60.0%	48.6%				
② ③ ④	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合	(R5) 小 80.5% 中 68.8%	小、中ともに 基準値より増	小 87.0% 中 80.3%				
②	「あおり創造学」プロジェクト事業における生徒の理解度 ① 地域の魅力を再発見し郷土愛が深まったか。 ② 地域課題への理解が深まったか。 ③ 地域課題解決など地域貢献したいという気持ちが高まったか。	(R5) ① 85.7% ② 91.1% ③ 87.7%	①、②、③ ともに 基準値より増	① 83.8% ② 89.8% ③ 86.4%				

<今後の方向性>

- 外国語教育の充実（教員の指導力向上、外国語教育における小・中連携の促進等）、国際的素養を身に付けたグローバル人材の育成（国際バカロレアの理念に基づく教育の推進、国外の高校生との教育交流の推進等）
- 探究学習・STEAM教育※の推進（「あおり創造学」を通じた地域課題解決型学習の実施や情報発信等）、郷土を理解し、愛着を深める人材の育成 ※ STEAM教育…科学・技術・工学・芸術・リベラルアーツ、数学の5つの領域を対象とした理数教育に創造的教育を加えた教育理念
- 主体的に社会の形成に参画する教育の推進（主権者教育、防災教育、消費者教育、ESD※等） ※ ESD…持続可能な開発のための教育

<参考> 令和6年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業 ふるさと青森を愛する心と行動に関する県民の意識調査報告書 (令和7年3月)



地域への愛着を持った理由 振り返ってみて、あなたはなぜこの地域が好きと感じるようになったと思われますか。(複数回答可)

	単位：%	20～29歳 n=49	30～39歳 n=75	40～49歳 n=144	50～59歳 n=151	60～69歳 n=211	70～79歳 n=245
子どもの頃からこの地域の祭りや行事に参加してきたから	24.6	30.6	29.3	20.1	19.2	18.5	18.4
家族からこの地域の良さを教わってきたから	5.6	4.1	9.3	1.4	4.6	5.7	4.5
学校でこの地域の良さを学んできたから	4.7	12.2	9.3	1.4	1.3	2.4	4.5
他の地域に住んでみて違いに気づいたから	26.8	12.2	17.3	27.8	21.9	21.3	23.3
自分の仕事とこの地域につながりを感じるから	15.8	10.2	6.7	5.6	9.9	18.5	17.6
住み慣れているから	52.1	30.6	37.3	29.2	33.8	53.6	53.1
生活するのに便利だから	19.9	6.1	16.0	13.2	9.3	17.1	24.9
人と人とのつながりを感じるから	18.0	8.2	10.7	10.4	7.9	17.5	22.0
この地域の自然や食などが自分に合っていると思うから	27.5	10.2	17.3	17.4	15.9	23.7	33.5
育った地域だから	30.3	20.4	21.3	20.1	18.5	31.3	28.6
思い出があるから	18.4	10.2	24.0	12.5	10.6	15.2	18.4
家族や親戚がいるから	26.3	18.4	29.3	17.4	17.2	21.3	25.7

▶「地域への愛着を持った理由」について、「学校でこの地域の良さを学んできたから」を挙げているのは、40歳以上の年代では1～2%程度であるのに対し、「20歳～29歳」では12.2%、「30歳～39歳」では9.3%と一定の割合を示している。本県では、令和2年度から県立高校において総合的な探究の時間に「あおり創造学」の導入を進めたりと、子どもたちは地域に関わる機会が増えてきており、地域への愛着については今後の成果が期待できる。